

平成28年度 新潟県少年の主張大会
村上・岩船地区大会

石田 優希

平林中学校3年生
最優秀賞

くもりのない目で

日本は民主主義の国です。民主主義の大前提として、「国民一人一人を尊重する」という考え方があります。それは、言い換えれば一人一人の人権を尊重するということになります。

日本国憲法第11条、基本的人権の享有には、「国民は、すべての基本的人権の享有を妨げられない。この憲法が国民に保障する基本的人権は、侵すことのできない永久の権利として、現在および将来の国民に与えられる。」とあります。しかし今、私たちの国で、その「人権」は大切にされているのでしょうか。

私は、同性による恋愛に対する偏見や差別を疑問に思います。なぜ、同性を恋愛対象として見ることに、多くの人が嫌悪感を抱き、そして差別するのでしょうか。

男性が女性を、そして女性が男性を好きになることが普通とされてきました。しかし、私たちが思っている以上に、同性を好きになる割合は多いのです。生物学的な研究では、実に10パーセントもの割合で、同性を好きになるという結果が認められています。こうしたことからも、決して不自然なことではないのです。確かに、種を存続するという観点から、異性を好きになることが主流であることは間違いなくしょう。だからといって、そこから外れた人たちだから、大切にしなければいけないということにはならないと思うのです。

最近、小学校2年生の私の妹が、仲のいい女の子と、将来結婚したいと言ってきました。「海外に一緒に行って、結婚式を挙げるの。そして、ここで一緒に住むの。」

妹はとても無邪気にそう話してくれました。幼いその言葉には、偏見の



「これから先、世間体を気にしたり、 偏見を持ったりすることなく生きていきたい」

かけらもありませんでした。私がそのことを母に話すと、母は「本当にその時が来て、あの子がそう願うならいいと思うよ。誰かを傷つけるわけではないんだし、あの子が幸せでいられるなら、それでいいと思うよ。」と言いました。

誰にだって言えることですが、この先同性に惹かれることが、ないとは限りません。もしかしたら、私もそうなるかもしれないのです。将来、一生この人と一緒に過ごしたいと願う人が現れたとき、その人がどんな人であっても、娘の幸せを最優先に考えてくれる母がいることを知り、嬉しくなりました。

2015年4月1日、東京都渋谷区で、全国初の同性婚を認める決定がなされました。パートナーシップ証明書を受け取った方たちは、心から喜んでるように感じられました。簡単な道のりではなかったのでしょうか。人とは違う自分を、「間違っていない」と肯定するまで、家族に認めてもらうまで、そしてこうして市民権を得るまで……。自分の生き方を貫く姿や、困難な壁を、共に支え合って乗り越えようとするその姿を、私はとても素敵に思いました。渋谷区の決定をきっかけに、このような動きが広がっていつてほしいと思います。

人を好きになるということは、素敵なことだと思います。その人を心の支えに感じ、その人のために何かをしてあげたいと思えることは、本当に幸せなことです。種を残したいと願うのは私たちの本能ですから、同性を好きになった人たちも、きっと子供がほしいと願うでしょう。何らかの事情で両親を知らないまま育つ子供も多いと思います。そんな子供を引き取って、愛情いっぱい育てることができたなら、どんなに素晴らしいことでしょうか。

英国のウィリアム王子が、ある雑誌の表紙を飾り、こんなことを言っていました。「誰であるかと、性的マイノリティであることを理由に、いじめられたり苦しんだりすることがあってはならない。」王子の勇氣ある行動に、私はとても感銘を受けました。好きだという感情を恥じることはない、そう言っているように感じました。

これから先、私はたくさんの人と出会い、関わりをもっていくでしょう。その中で、世間体を気にしたり、偏見をもったりすることなく生きていきたいです。本当に大切なものは何なのかを、しっかりと見つけたい。

佐藤 美幸



優秀賞
 山北中学校3年生

夢と目標
 何かをする度に「無理」と言っていた私が、ある先生のおかげでさまざまなことに積極的に挑戦できるようになった。おかげで夢や目標は日々の原動力になっている。

中山 彩華



優秀賞
 神納中学校1年生

私の弟
 発達障がいの弟は、自分のできることを一所懸命頑張っている。その姿をみて、私は挑戦する気持ちが大切なのだ知った。多くの障がいの者になりたい。

新野 遥



奨励賞
 荒川中学校3年生

絵を描くこと
 絵には言葉と同様に気持ちを伝える力がある。これからさまざまな作品に触れ、その伝わった気持ちを原動力に、さらに大好きな絵を描いていきたい。

熊倉 ミハイ



奨励賞
 朝日中学校3年生

ポジティブの定義は次は大丈夫！
 人見知りの意識をなくしてみようと人と関わったことで、とても楽しく過ごすことができた。皆さんもこの楽しさを気付いてほしい。

児玉 愛佳



奨励賞
 村上第一中学校3年生

私が見た「福島」
 学校の福島訪問を通じて、被災地の現状と住人の温かさを知ることができた。一日も早い復興のために、この経験をたくさんの人に伝えたい。

高橋 郁乃



奨励賞
 村上中等教育学校3年生

生きる意味、生きる価値
 叔父の死をきっかけに考えた生きる意味や価値。「学ぶ」ことが自分の生きる意味や価値を知ることなのではないだろうか。

渡邊 茉夏斗



奨励賞
 岩船中学校2年生

感謝すること感謝されること
 部活動を通じて、身近な人への感謝の気持ちを持つことが、自分が生きていく上でいかに大切なことなのかを知った。

小形 真唯



奨励賞
 村上東中学校3年生

魅力ある観光地を目指すには
 村上市が魅力ある観光地になるためには「思いやりの心」が必要だ。行動を起こして、みんなの意識を変えていきたい。

平

成28年度新潟県少年の主張大会くわたしの主張
 村上・岩船地区大会が、8月20日(土)に教育情報センターで開催されました。

郡市内各中学校の代表11人が、日常生活を送る中での感じたことや考え、感銘を受けた経験を通した自分の主張を堂々と発表。審査時間中のアトラクションでは、荒川中学校の吹奏楽部が、すばらしい演奏を披露してくれました。

審査委員長を務めた鈴木正美さん(村上市岩船中学校長会副会長)は「中学生らしく、立派に自分の考えを主張していた。どの主張も前向きに生きていく」という強い訴えで、本気度が伝わり、私たち大人も学ぶべき点が多い内容でした」と講評。

最優秀賞に選ばれた石田優希さんは、9月18日(日)に長岡市で開催された新潟県大会に、村上・岩船地区の代表として出場しました。

全員の主張は、県ホームページで公開しています。

●問い合わせ

村上地域振興局健康福祉部
 (村上保健所内) ☎53・8361

市外(岩船郡)の代表で小田校生さん(関川中学校3年生)と白石優希さん(粟島浦中学校3年生)が奨励賞を受賞しました。